

地域包括ケア推進会議委員委嘱状交付式

令和6年8月21日(水) 18:30~

次第

- | 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 閉会





令和6年度 第1回 地域包括ケア推進会議

令和6年8月21日(水) 18:40~

次第

- | 開会
- 2 新任委員紹介·事務局紹介
- 3 副会長選出
- 4 会長あいさつ・副会長あいさつ
- 5 議事

【報告事項】

- (1) 第10次市高齢者保健福祉計画について
- (2) 医療と介護の連携について(ACPの普及啓発について)
- (3) 認知症サポーターの活動促進について
- (4) 本市の公共交通施策について

【協議事項】

- (1) 福祉介護人材確保に向けた検討部会の設置について
- (2) 中地域ケア会議の取組みについて





報告事項

(1)第10次市高齢者保健福祉計画について

策 定 令和6年3月 計画期間 令和6~8年度



本計画のポイント

- I.「地域包括ケアシステムの深化」 <u>「介護人材確保・介護現場の生産性向上」への取組みを推進</u>
- ●基本理念「ひとりひとりが健康で

いきいきと安心して自分らしく暮らせるまち いわき」

- ●ビジョン (I)健康寿命の延伸
 - (2) いわき市地域包括ケアシステムの深化・推進
 - ・・計画期間中に、2025(令和7)年を迎え、団塊の世代が75歳以上に。 市の<u>高齢者数のピークは迎えた</u>が、<u>後期高齢者数のピークは6年後</u>

→認定率の上昇、認知症高齢者の割合増、 人口減のスピードが速いため、高齢化率も増となる予測。

地域共生社会の実現や、自分の望む最期を実現するための取組を加速

- 2. いわき市独自の「認知症施策推進計画」を本計画と一体的に策定
 - ・・国の「認知症施策推進大綱(R1.6)」及び「認知症基本法の施行(R6.1) の考え方を踏まえ、
 - ●市独自に「認知症施策推進計画」を策定 (中核市のうち15市が策定)

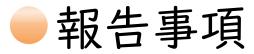


報告事項

(2) 医療と介護の連携について(ACPの普及啓発について) 【医療・介護関係者】

		実施主体	事業・イベント等	対象者
医	療	医師会	在宅医療出前講座	一般市民
		病院協議会	介護フェア・救急フォーラム ブースまたはACP資料設置	一般市民
		病院	連携室ブース等に資料設置 主治医・看護師等が、本人・家族等 に意思決定支援を行う	外来・入院中・在宅 療養中の患者(家族
		診療所	主治医が、本人・家族等に意思決定 支援を行う	外来・在宅療養中の 患者(家族等)
		薬局 訪問看護事業所	主治医、ケアマネ等と情報共有した 上で、本人・家族等に意思決定支援	担当している在宅療養の患者(家族等)
		理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	を行う	
介	護	特老・老健等入所施設	入所時、身体状況変化時等	入所者とその家族
		介護支援専門員	主治医、医療・介護関係者と情報共 有した上で、本人・家族等に意思決 定支援を行う	担当している在宅療養者(家族等)
		訪問介護	ケアマネ等と情報共有した上で、本 人・家族等に意思決定支援を行う	





【行政等】

NPO法人	実施主体	事業・イベント等	対象者
NРОДХ	地域福祉ネットワークいわき (地域包括支援センター)	エンディングノート作成支援事業	つどいの場等 (主に高齢者)
	地域包括ケア推進課	いごくミーティング	一般市民
	医療対策課 (いわき市在宅医療・介護連携支援センター)	市役所出前講座「在宅医療・介護 について」※ACP内容含む	一般市民 (主に高齢者)
行 政		おでかけ「人生会議」	一般市民 (無関心層:企業 等とのコラボ)
		広報いわきへの投稿	一般市民 (無関心層)
		ポスター、動画等	一般市民 (無関心層)



報告事項

(3) 認知症サポーターの活動促進について

認知症の人ができる限り地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができるよう、認知症の人やその家族の支援ニーズと認知症サポーターを中心とした支援をつなぐ仕組み「チームオレンジ」を構築し、認知症サポーターのさらなる活躍の場を整備する。

【現状】サポーター養成状況 延べ28,327人(平成18年度~令和5年度)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
養成人数(人)	704	923	1,118
(企業)	(45)	(100)	(76)
(教育機関)	(345)	(423)	(743)

●地域での具体的な活動をするための働きかけや機会の提供が十分でない。

令和5年8月にステップアップ講座(認知症サポーター養成講座を修了した方が復習も兼ねて学習する機会であり、座学だけでなくサポーター同士の討議・演習も含めた、より実際の活動につなげるための講座)を平地区をモデルに開催し、15名が受講。内14名によるボランティアチーム(チームオレンジ)を結成した。



チームオレンジのこれまでの活動(令和5年10月~令和6年7月)

- ●勉強会(ワークショップ)の開催(マルトSC城東店)
- ●イートインスペースでパネル展示(マルトSC城東店・草野店)
- ●健康サロン①(マルト食育推進室管理栄養士による健康講座) 健康サロン②(認知症VR体験、ものわすれ相談会) 健康サロン③(薬剤師によるお薬相談会)

(マルトSC城東店)

- ●インスタントシニア体験会(マルトSC草野店)
- ●オレンジカフェ以和貴(いつだれKitchen)見学会
- ●研修(ゲートキーパー養成講座・傾聴)
- ●民生委員との交流
- ●認知症サポーター養成講座運営(マルトSC草野店)



ワークショップinマル



オレンジカフェ以和貴見学会



インスタントシニア体験会



認知症サポーター養成講座inマルトイートイン



チームオレンジの今後の活動

認知症があっても自分らしく安心して暮らし続けていくために、地域のあらゆる障壁(バリア)を減らしていく「認知症 バリアフリー」のまちを、認知症の本人と共に創り、共に生きる社会を目指す。

モデ ル事 業

スローショッピングをマルトSC草野店で開催決定





詳細

開催日 令和6年9月4日(水)

時 間 13時30分~15時30分

専用レジ 14時~15時

場所 マルトSC草野店

内容

- ●<u>お買い物のお手伝い</u>
 - チームオレンジメンバー(認知症サポーター)が買い物をお手伝い。
- ●<u>交流の場の設置</u> イートインスペースを交流・啓発・相談の場として活用。 専門職を配置する。
- ●スローレジの設置ゆっくりお会計ができる専用レーンを設置する。

今後、地域ごとにチームオレンジを整備していくとともに、スローショッピングについて市内商業施設へ働きかけていく。



高齢者生活安全部会

「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会」の実現を目指し、「認知症に関する理解の促進」「認知症の人や家族への支援体制の充実」「医療・ケア・介護サービス体制の構築」「認知症予防の充実・強化」「認知症バリアフリーのまちづくり」を基本とした取組みを推進するための協議を行う。

令和5年度(協議事項)

【第1回】7月19日開催

- ●認知症初期集中支援チームについて
- ●令和4年度の活動実績及び令和5年度の取組み について
- ●認知症サポーターの活動促進について

【第2回】2月21日開催

- ●認知症初期集中支援チームの活動状況について
- ●新しい取組み(チームオレンジ)の進捗について

令和6年度(予定)

【第1回】8月28日開催

- ●令和5年度活動実績と今年度の取組みについて
- ●認知症初期集中支援チームの活動状況について
- ●認知症サポーター活動促進の進捗について

【第2回】12月頃

- ●認知症初期集中支援チームの活動状況について
- ●チームオレンジの今後の取組みについて





(仮称)福祉介護人材確保に向けた検討部会の設置について (1)

背景

人口減少と社会の高齢化の進行

- ①生産年齢人口の減少
- ②2025年問題(団塊世代が後期高齢者)
- ③2040年問題(団塊ジュニアが高齢者)

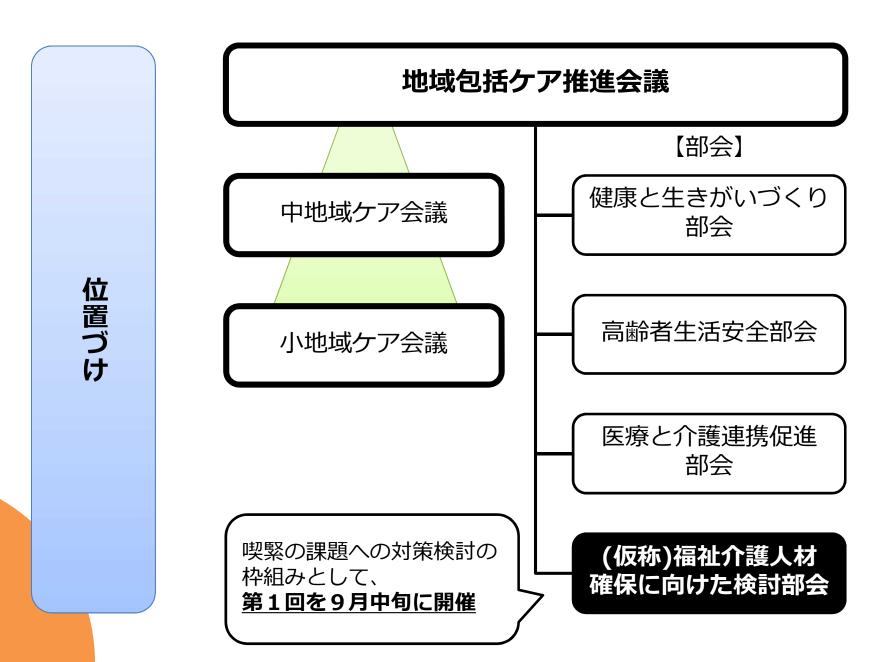
介護人 材将来 推計

第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数

(R6.7厚生労働省)

- 国 2026(R8)年度で約25万人、2040(R22)年度で約57万人が不足
- 県 2,207人、 " 7,504人
- 市(推計) " 424人、 1,440人 "







(仮称)福祉介護人材確保に向けた検討部会設置要綱(案)

1 目的

介護人材の確保・育成・定着に向けた対策について検討を行うことを目的として、いわき市地域包括ケア推進会議の部会として、(仮称)福祉介護人材確保に向けた検討部会(以下、「部会」という。)を設置する。

2 検討事項

部会は、次の事項について検討する。

- (1) 福祉介護人材確保等に係る情報収集、分析に関すること。
- (2) 福祉介護人材確保等に係る施策の検討、実施に関すること。
- (3) 福祉介護人材確保等に係る市と介護事業者との連携に関すること。
- (4) その他、必要な事項に関すること。

3 構成

部会は、次に掲げる者をもって構成する。

- 1) 地域包括ケア推進会議委員
- (2) 障がい福祉事業者
- (3) 介護保険事業者
- (4) 教育機関
- (5) いわき市職員
- (6) その他、関係機関団体の職員

4 委員任期

- (1) 委員の任期は、令和 年 月 日までとする。ただ し、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、 前任者の在任期間とする。
 - (2) 委員は再任されることができる。

5 会議

- (1) 部会は、介護保険課長が招集し座長となる。
- (2) 介護保険課長が必要と認めたときは、部会に委員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聞くことができる。

6 庶務

部会の庶務は、介護保険課において処理する。

7 その他

この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、介護保険課長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和 年 月 日から施行する。



検討部会運営のイメージ(案)

- ▶ 会長、副会長は設けず、座談会としフラットに意見を出し合う場とする。
- 介護人材の確保・育成・定着に向けた対策がテーマとなる。
- 構成員は、地域包括ケア推進会議委員
 - ・福島県老人保健施設協会いわき連絡協議会・・
 - いわきケアマネ協会・・・・・・・・・
 - ・福島県小規模多機能居宅介護支援事業連絡会・ 卜 介護関係者
 - ・福島県老人福祉施設協議会いわき支部・・・・
 - ・いわき市障がい者福祉連絡協議会・・・・・・
 - ・NPO地域福祉ネットワークいわき・・・・・ 予防関係者
 - ・いわき市社会福祉協議会・・・・・・・・ 生活支援関係者 のほか、サービス事業者や教育機関及び、市職員等とする。
- ▶ 委員の任期は、地域包括ケア推進会議と合わせる。
- 部会進行は、介護保険課長が座長となる。



協議事項

(2) 中地域ケア会議の取組みについて

の

ため

平 地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

2.これまでの主な取り組み

3.今後の取り組み・目指す姿

【平地区の背景】

夏井川流域に位置する旧城下町としての 歴史を有し、本市における中心で人口が最も 多く、また、浜通り地方最大の商業地区を形成している地区であり、いわき駅近郊では居 住用マンションも点在している。

【抱える課題】

○ 都市部から中山間地域まで地域性が多様なため、地域が抱える問題も多岐に渡り、単純に集約できない面はあるが、「地域コミュニティの希薄化への対応」「既存の団体・活動(自治会、老人クラブ等)の活性化」

「世代間交流の必要性」など、地域住民の結びつきが低下傾向である。

○ 高齢化の進む地域において、バス路線 の廃止や減便、心身機能の低下に伴う自 動車運転免許証の返納により、移動手段 が絶たれ外出に困っている高齢者の実態 が見られる。

このことから、住み慣れた地域での生活を続けていくため、移動手段の仕組み作りが必要である。

【これまでの主な取組み】

〈平成30年度〉

- ・ 徘徊模擬訓練「ハイカイチュウ」実施 <令和元年度>
- ・「平在宅療養多職種連携のつどい」に ついて協議、意見交換
- <令和2・3年度>
- ・コロナ感染拡大による事業中止
- <令和4年度>
- ・ 高齢者等の移動手段に関するアンケー ト調査の実施
- 講演会の開催(島田眼科医院)

<令和5年度>

- ・ 第10次いわき市高齢者保健福祉計画に おける取組みの推進
- ⇒ 地域別計画の作成について、本会議 の主要な検討課題である「移動支援 の仕組みづくり」の視点を盛り込む こととした。
- ・ 高齢者等の移動手段に関するアンケー ト調査追加実施の方向性の検討
 - ⇒ 令和4年度実施の調査結果に加え、 モデル地域を選定するなどにより、 地域別の特性をより明確にするため のアンケート調査を再実施する。

【目指す姿】

平地区に住んでいる高齢者が買い物等をはじめとする移動支援サービスを身近に利用できるような仕組みづくりを、民間で取り組んでいる既存資源を有効活用して構築することで、地域包括ケアシステムにおける「生活支援」の充実化を図り、もって高齢者が尊厳を保ちながら住み慣れた地域において安心・安全な生活ができる環境を整えることを目指したい。

【今後の取り組み】

アンケート調査の追加実施により、地域それぞれにおける優良事例の確認や、課題の抽出、市既存事業の成果を確認し、その結果を関係各者にフィードバックし、横展開や事業の深化を促すとともに、なお解決が困難な事例については、地域資源を中心とした連携による解決を試みる。

しい 【*

か



★令和5年度第1回会議の様子



この会議で、「第10次いわき市高齢者保健福祉計画における取 組みの推進」について協議しました。

★令和5年度第2回会議の様子



この会議で、検討テーマである「移動支援における仕組み作り」に係るアンケート調査の実施の方向性を決定しました。



小名浜地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

- ①高齢者のみ世帯やひとり暮らし高齢 世帯が増加する中、認知症になると自 宅での生活をあきらめざるを得ない 特に海に囲まれた地域では水による 事故の危険がある
- ②高齢になると身体機能、認知機能 の衰えから、ゴミの分別が分からない、 ゴミ集積場まで歩いていけない、ゴミ 集積場の金属ドアが重くて開けること ができないといった課題がある

2.これまでの主な取り組み

- ①「認知症になっても誰もが住みやすい 街づくり」を目指し折戸地区において認 知症見守りステッカーの配布
- ②認知症の方やその家族が早期に相談窓口につながるためのQRコード付き認知症啓発ステッカーを商工会議所の協力を得て管内の商店、企業91か所に配布
- ③ゴミ出し支援で先進的な取り組みを実施している自治体(千葉市・日野市)への視察

3.今後の取り組み・目指す姿

- ①早期に相談機関や市の認知症施策の 情報を得られる仕組みづくり
- 「認知症になっても誰もが住みやすい 街づくり」を目指し地域での見守り体制整 備と認知症への正しい理解
- ②モデル地区でのゴミ出し支援を通じて 得られた結果を生活環境部へ提言する ことで、住み慣れた自宅での生活が継続 できる仕組みづくり



ステッカー交付(折戸区)









ステッカー交付式

区内の商店へステッカー貼付

第1回中地域ケア会議の様子(令和6年6月26日開催)











勿来・田人 地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

【地区の背景】

管内の高齢化率は、勿来、田人地区 ともに、市全体を上回っており、勿来地 区では、住民の3人に1人以上が高齢 者、田人地区では、2人に1人以上が 高齢者となっている。

住民同士の結びつきが比較的高いという地域の特性はあるが、近年の急速な高齢化の進展のもと、地域の住民活動等については、将来的な担い手不足も懸念される状況にある。

【抱える課題】

コロナ禍の影響に加え、地域住民活動の担い手の高齢化や率先的な継承者の不足などもあって、「つどいの場」や「住民支えあい活動」などの地域活動への参加に関し、一部に停滞や縮小傾向も見られ始めている。

2.これまでの主な取り組み

【これまでの主な取組み】

高齢期において健康長寿を維持する ために、「フレイル予防」の重要性が地 域の幅広い関係者間で共有されるよう 努めている。

また、フレイル予防においては、特に 社会参加活動が重要であるという認識 をもとに、「つどいの場」や「住民支え合い活動」、「いきいきシニアボランティア ポイント事業」などの住民主体の社会参 加活動が積極的に行われるよう働きか けている。

特に、「つどいの場」については、男性の参加が低調になっているという課題もみられることから、男性の主体的な活動を促すため、モデル的に男性参加者のみのワークショップ等を実施している。こうした取り組みを通じて、男性が積極的に参加できる社会参加活動の構築方法等の確立ができるよう図っていきたい。

3.今後の取り組み・目指す姿

【目指す姿】

地域における高齢者の幅広い参加と活動が促進され、効果的なフレイル予防や介護予防活動が、住民主体により、日常的に無理なく楽しく行われ、一人一人が生きがいを持って生活できるような地域を目指していきたい。

【今後の取り組み】

「つどいの場」や「住民支え合い活動」 等の既存事業について、地域での取り組 みの実態についてあらためて 精査し、課題や活性化策等について分 析するとともに、「介護予防・日常生活支 援総合事業」などのあり方も含め、地域 において、様々な主体がそれぞれの立 場から参加できる幅広い介護予防活動 が展開されるように働きかけていきたい。



平成5年度 第1回 勿来・田人地区中地域ケア会議





常磐・遠野 地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

【地区の背景】

常磐八仙・浅貝地区は公営住宅が多く、 高齢者の入居者も多い。また、地域の 高齢化が進んでいる。当該地区にお いては、スーパーマーケットの閉店に 伴い、買い物に困る高齢者が発生して いる。

【抱える課題】

- ○徒歩で買い物ができる店舗が近隣 にないため、買い物に困っている 高齢者がいる。
- ○高齢者の外出する機会が減ること で社会的なつながりが薄くなる。
- 〇高齢者は体力が低下しており、買い物をした後に買ったものを自宅 まで運べない場合がある。

2.これまでの主な取り組み

【これまでの主な取組み】

- ○当該地域住民に対しアンケート調査 を実施。
- ○管内の介護保険事業所に対してアン ケート調査を実施。
- ○地域ケア会議に議事として提出。
- ○地域ケア会議において買い物支援作 業部会を立ち上げ、協議を進める。
- 〇地区の高齢者を交えて買い物支援に ついての実証実験を実施。
- 〇小地域ケア会議を開催し、地域住民 に対し、実証実験の結果報告等を 行う。

3.今後の取り組み・目指す姿

【目指す姿】

○地域の高齢者が外出し、商品を実際 に手に取り、自分で必要なものを選んで 買い物ができるような環境を構築する。

【今後の取り組み】

〇近日中に買い物支援運営協議会を立 ち上げ、運用を目指す。













内郷・好間・三和 地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

高齢化率は市全体と比較して高 く、年々上昇している。特に三和 地区の高齢化率は40%を超え、 要介護者も中度者の割合が高い など地域間での差があり、中山間 地域における介護予防の推進や 意識醸成が課題となっている。

また1人暮らしの高齢者や認知 症高齢者の増加が見込まれてお り、様々な主体による生活支援体 制の充実・強化、地域活動に参加しめ する担い手の確保がますます必 要とされている。

2.これまでの主な取り組み

≪中山間地域におけるフレイル予防の 取組≫(令和4年度~令和6年度)

- ・作業部会を設置し、専門職と連携 した独自のフレイル予防プログラム を作成。「合戸地区フレイル予防 チャレンジ」として、モデル地区の 高齢者を対象に、運動や栄養に関 する講話や各種測定などを実施し
- 自宅でも取り組めるメニューを紹 介し、フレイル予防に関する意識 醸成を図った。
- 他の地区にも啓発を広めるため、 取組の成果を共有し、市民向けの 情報発信の方策について検討した。

3.今後の取り組み・目指す姿

○1人ひとりが健康でいきいきと暮 らし活躍できるまち

地域住民が介護予防や健康づく りに主体的に取り組めるよう、フレ イル予防の普及啓発や社会参加の 機会づくりをすすめる。

〇住み慣れた場所で安心して生活 を続けられるまち

単身高齢者や認知症高齢者の増 が見込まれることから、地域の資源 や、住民の力を生かしながら、多様 な生活支援の充実を図る取組の検 討と実践をすすめる。



合戸地区フレイル予防チャレンジの取組の様子





各種測定



参加者との意見交換会



講話・予防メニューの紹介

≪フレイル予防チャレンジを通しての声≫

- ・フレイル予防の重要性に気づき、自身の生活を 振り返るきっかけとなった。
- ・測定結果を通して、今後何をどのように取り組めばいいのか学び実践する機会になった。
- ・交流を継続することへの意識が高まり、オンラインつどいの場の開催、参加に繋がった。



四倉・久之浜大久地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

- ・地域の担い手が高齢化しており、後 継者となる人材の育成・確保が急務で ある
- ・認知症への理解が不足している
- 公共交通機関の空白地域が拡大し、 高齢者の移動手段が乏しい

2.これまでの主な取り組み

- ・医療介護学校よつくら塾を通じた専門 職による介護予防教室等の開催
- 地域住民ボランティアの協力のもと、 認知症の人と家族の一体的支援プログ ラムとして、ミーティングセンター「寄る べ」を毎月開催している
- ・小中学生向けに認知症教室を開催し ているが、保護者から認知症のことを相 談できる窓口やサポート体制の情報を 求める声が多い
- 令和6年1月から3月にかけて実施し た定額タクシーの実証運行で、利用の 呼びかけに協力した

3.今後の取り組み・目指す姿

【目指す姿】

- ・よつくら塾を通じた地域で活躍できる介 護予防のリーダーの育成
- ・認知症になっても本人の意思が尊重さ れ、できる限り住み慣れた地域で暮らし 続けることができる社会の実現 【今後の取り組み】
- ・サロンや住民支え合い活動団体等と よつくら塾卒塾生とのマッチングによる担 い手の確保
- ・ミーティングセンター「寄るべ」の定例開
- 認知症の発症から病気の進行に応じて、 本人やその家族が、いつ、どこで、どの ような医療・介護その他サービスを利用 すればよいかが理解できるもの(よつくら 版認知症ケアパス)の策定に向けた協力 体制の構築
- ・スローショッピングの実施に向けた検討
- ・定額タクシーの実証運行を今年度も実 施する予定であることから、積極的に協 力していく

令和6年度 第1回 地域包括ケア推進会議









よつくら塾 グループワークの様子

ミーティングセンター「寄るべ」の活動



<u>小川・川前</u>地区中地域ケア会議の取り組み

め

1.地区の背景・抱える課題

【地区の背景】

中山間地域であり、高齢化の急速な進行や若年層の地区外への 流出により、単身高齢者や高齢者 のみ世帯が増加傾向にある。

今後、地域や家族の支え合いの 基盤が弱まることが危惧される。 【抱える課題】

- ○「つどいの場」のリーダー の高齢化や参加者の固定化が 見られ、活動を休止する団体 も出始めている。
- 〇シルバーリハビリ体操教室の 指導者等、地域の介護予防の 実践者となるリーダーや後継 者が不足している。
- ○複合的な課題を抱える8050世帯や、地域から孤立する世帯の増加

2.これまでの主な取り組み

〇住民主体の活動の支援と普及 啓発

地域活動の拠点となる「つどいの場」「高齢者見守り隊」 「第3層協議体」等の活動を支援し、空白地域への普及啓発に取り組んでいる。

〇「小川寺子屋」の実施

高齢者の「生きがいづくり」や「介護予防と健康寿命の延伸」を目的に平成28年度から事業を開始。令和元年度以降は水害とコロナにより休止していたが、令和5年度は「地域のリーダー育成」の視点も加え、参調者の年齢制限を無くし、介護事業所の従事者も参加可能にし、約4年ぶりに再開した。

3.今後の取り組み・目指す姿

【目指す姿】

地域で暮らす誰もがつながり 早期発見、早期介入により、全 ての人がどのような状態になっ ても安心して暮らせる地域。住 民主体の活動により、地域のつ ながりを維持し、地域全体で課 題に向き合っていく。

【今後の取り組み】

各事業が効果的に連携しながら、地域活動のリーダーの人材確保や活動支援につながるよう、事業間の連携のしくみや事業運営のあり方について検討し、改善を図っていく。

これからは



令和5年度小川寺子屋の様子(令和5年10月11日から12月6日までの間に全5回開催)



第1回「フレイルを考えた生活習慣病の予防」



第3回「自分らしい幸せな暮らしについて」

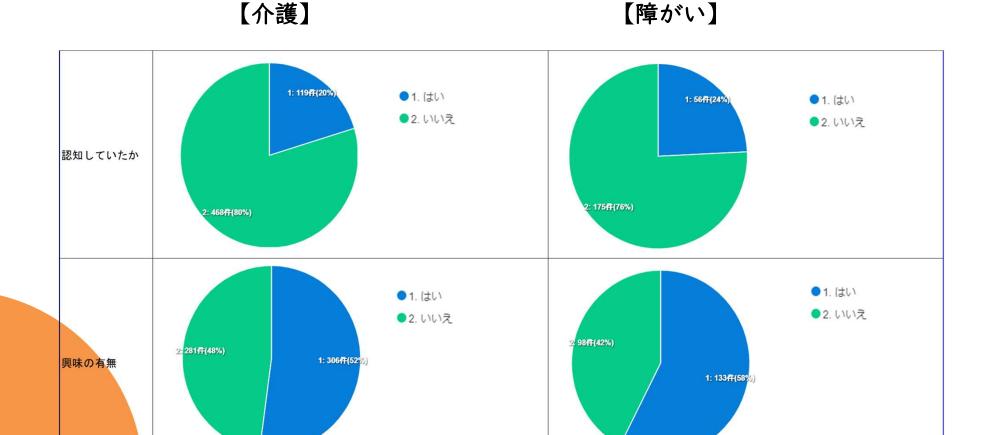
- 令和5年度小川寺子屋申込者数(全5回コース)
 - ・一般参加者17名、介護事業所等4法人
 - ・全5回コースの参加者数:延べ99名、出席率約86%
- 〇 課題

受講者の自己啓発の機会にはなっているが、リーダ活動に 興味がある受講者は少なく、リーダー養成までは至っていない。



参考資料

(I) 社会福祉連携推進法人制度について 法人集団指導時に制度の認知と制度への興味についてアンケートを実施





ありがとうございました。